



豊かな自然・
かがやく文化
大好き阿賀町

～「阿賀町15年教育」で未来の創り手を育む～

阿賀町学習指導センターだより

令和3年7月21日（水）№9

学校訪問より vol.7 ～上川小 廣瀬 智子 先生～

3年生国語 単元「まいごのかぎ」。本時のねらいは、「登場人物の気持ちの変化を通して、場面の移り変わりと結び付けて、見方・考え方が変化したことに気付くことができる。」、そして「自己の学びを振り返りに記述することができる。」の二つです。



導入。学習の足跡を子どもたちと一緒に確認する廣瀬先生。ホワイトボードには板書の記録、ディスプレイには、主人公「りいこ」の心情の変化を示す心情曲線。これにより、子どもたちはこれまでに読み取って来た主人公「りいこ」の気持ちの変化を確かめることができました。

学習導入部に振り返りを取り入れることは、子どもの学習への問題意識の連続性をつくり、学習意欲を高めることになります。前時と本時をつなぐ大事な、大事な場面です。そして、本時の課題、今日のゴール、振り返りの定型文を提示し、子どもたちと共有する場を作りました。子どもたちが本時の課題をノートに書き写します(写真上)。書き写し終わった子から、立ち上がり課題を読み上げます。本時の課題の自覚化ですね。



展開場面。廣瀬先生は、子どもたちを揺さぶります。「バス停のかんぱんの場面」は、「よけいなこと？それとも、よけいでないこと？」。「『わからない』があってもいいよ」と廣瀬先生(写真中)。二項対立の発問により、立場を明らかにすること出来ました。また「わからないことがあってもよい」という働きかけが、子どもの学びを保証するとともに、他の立場の子どもたちの考えを活かす場を設けることの必然性がより強くなっていきます。



子どもたちはディスプレイ前に、それぞれの「立場」ごとに分かれます(写真下)。子どもたちが立場の根拠となる叙述に即して話します。ここでタブレット端末とディスプレイとで叙述か所を共有します。

廣瀬先生は、繰り返し、「教科書」の叙述を根拠にしてお

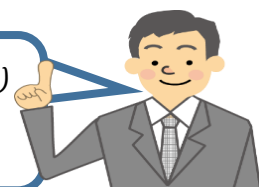


話しよう子どもたちに働きかけていました。とても重要なことです。叙述に即すことのない子どもの発言は、「独りよがり」の意見になってしまいます。教科書と子どもの学びをつなぐことが大事にされて指導なさっていることはとても素晴らしいと思いました。

終末、学習の振り返りをする場面。提示された形式に沿って、子どもたちが学習を振り返ります。（「はじめは～。でも～して、～と分かった。次は～について考えたい。」）

3年生をはじめとした下学年の子どもたちには、「形」を提示することは、安心して振り返ることにもつながります。振り返りの最後に、今日の自分について A,B を付ける場面。ある子は、すぐに書きませんでした。しばらくして、「A」と記しました。自分の学びを思い起こし、十分に「自己内対話」していたからでしょう。子どもたち一人ひとりの「考えること」「話すこと」「書くこと」を大切に授業でした。

発達段階が上がるにつれ、教師が提示した振り返りの観点から離れて、振り返り(自己内対話～自分の学びについて～)させていきたいですね。

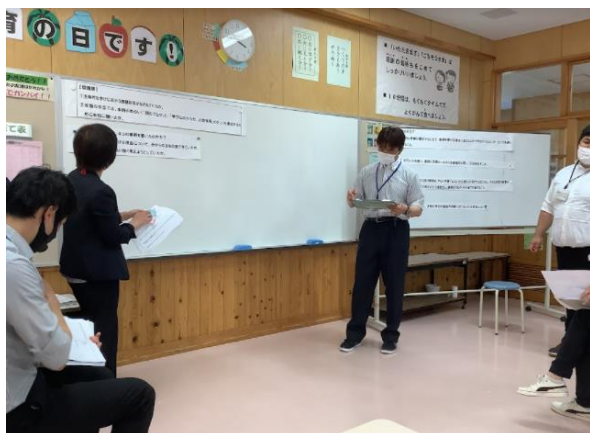


協議会あれこれ～上川小スタイル～の紹介

子どもたちしながら、先生方がホワイトボード前に集まり、授業を検証していらっしゃいます。その祭、本時のめあては達成されたのか、その背景には何があるのか、手立てが効果的だったのか、それとも手立て以外の何が有効だったのかを全体で協議していきます。

また、先日の学校訪問では、ロイロノートのテキスト、提出、一覧の機能を用いた協議会を行っていらっしゃいました。右写真は、榊原先生が、ご自身の記録(ロイロノートに取り込み、ディスプレイに表示)をもとに、本時について問題提起なさっている様子です。授業記録の共有、代案の提示も即時的に可能であることが分かります。

協議会にタブレット端末を用いることで、教える側のスキルを高める機会(研修も兼ねていますね。)となっているようにも思えました。



発行 阿賀町学習指導センター

住所 〒959-4392 東蒲原郡阿賀町鹿瀬 8931 番地 1

電話 0254-92-3337 FAX 0254-92-2116

E-mail kohiyama_hyk4042@town.aga.lg.jp

kyoiku3@town.aga.ed.jp



町の鳥 ウグイス